

大船渡市総合計画 2021 策定に向けた分野・階層別グループインタビュー実施状況 ～おおふなとのまちとヒトを語るグループインタビュー～

1 趣 旨

大船渡市総合計画 2021 策定にあたって、市民ニーズやまちづくりへの意見・提言等を把握し、計画策定に反映させるため、分野・階層別のグループインタビューを実施する。

2 開催概要

- (1) 6つの分野・階層を対象としたグループインタビュー形式とし、各グループの属性は、①高齢者、②子育て関係者、③商工業者・観光関係者、④農林水産業者、⑤市民活動関係者、⑥高校生とする。
- (2) 活発な意見出しに結び付くよう少人数で実施する。
- (3) 各グループ8～10人程度とする。
- (4) 各団体に対して周知、参加者を推薦してもらうこととし、幅広い意見につなげるとともに、実践する立場の人の意見聴取やその人材掘り起こしのきっかけとなるよう、代表者以外の方に参加してもらう（概ね50歳以下）ことに配慮する（高齢者グループを除く）。

3 内容・参加者数

グループ	日 時	場 所	参加者数
①商工業者・観光関係者	6月24日(水) 15:00～16:30	カメラアホール	9名
②高齢者	6月25日(木) 10:00～11:30	カメラアホール	11名
③子育て関係者	6月25日(木) 13:30～15:00	カメラアホール	5名
④市民活動関係者	6月26日(金) 10:15～11:45	おおふなぼーと	8名
⑤農林水産業者	6月26日(金) 13:30～15:00	おおふなぼーと	4名
⑥高校生	7月15日(水) 17:00～18:45	シーパル大船渡	8名

4 今後の予定

- (1) グループインタビュー結果の概要を大船渡高校、大船渡東高校向けに説明…〔説明済〕
⇒ 今後のまちづくりへの高校生の参画等について意見交換（例：出前講座やグループインタビューの継続開催など）。
- (2) 「復興後のまちづくりに向けた市政懇談会」での意見・提言とあわせ、総合計画 2021 の骨子・前期基本計画の作成資料として活用。
- (3) 9月28日に開催予定の「第2回大船渡市総合計画審議会」にて資料提示。
⇒ 審議会終了後には、結果概要を市ホームページに掲載して公表。

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策1 豊かな市民生活を実現する産業の振興

- ・外国人観光客は大船渡の場所は知らないが、震災のことは知っている。養殖の様子や、農家の体験など、田舎らしいことに人気がある。
- ・働く場として、コロナもあって都会に出て行くことをためらう高校生もいるかも知れない。生まれた場所で働きたいと思うような、住みやすいまちであって欲しい。
- ・インターンで20代の人たちに来てもらうようにしている。職場に活気が生まれる。
- ・コロナの影響によりオンライン〇〇が増えた。大学の授業や、ワーケーションなど新しいことを取り入れていく必要がある。ITは便利だが人が動くような組み合わせが必要。買い物、交通手段、宿泊、食事、いずれもオンラインということにならないように。
- ・若者からすると、一度、大船渡の外の空気を吸ってみたいと考える。外に行くと、そこで新たな人脈ができて、それを生かしてさらに人のつながりが生まれる。
- ・岩手県では、I・Uターンをした人に現金を給付している。大船渡でもそれに上乘せするようなものを考えて欲しい。

施策2 安心が確保されたまちづくりの推進

- ・外国人にとって、日本の大都会は多言語の情報や食材を入手できるなど、暮らしやすい。大船渡はそうしたものがあまりない。
- ・外国人と地元の人が触れ合える機会があればいい。地元のおじいちゃん、おばあちゃんのやさしさを感じる。

施策3 豊かな心を育む人づくりの推進

- ・大船渡駅周辺のBRTより海側には、学校によって「子どもだけで行かないこと」と指導しているところがある様子。防潮堤もできあがりつつあり、一律に禁止するのではなく、避難などの防災意識を高めるような教育をやっていったほうがいいと思う。
- ・奨学金を受けて大学に進学したが、大船渡に戻ってきて、給料が安くて、そこから奨学金を返してとなると、結婚したくてもなかなか難しい。

施策4 潤いに満ちた快適な都市環境の創造

- ・公共交通の本数が少なく、観光客を碇石海岸に案内するにもタクシーの利用となってしまうが、それも高額となるため結局、「行かない」ということになってしまう。
- ・公共交通以外に移動の足として、学生のインターンシップに電動自転車を活用してもらったことがあった。
- ・三陸沿岸道路を利用して、遠くから来る人が増えた。観光客の行動パターンが広がった。
- ・良質の海があり、物流面で優れている。トラック輸送のため、もう少し内陸へのアクセスがあると魅力が出てくる。
- ・大船渡駅周辺では、災害危険区域の指定によりBRTより海側は住宅を建築できないが、防潮堤が完成した後は、昔のように店舗兼住宅の建築を認めて欲しい。店が閉まると誰もいなくなって人のつながりが希薄。普段から隣近所や子どもたちと顔見知りになるようにしたい。
- ・ILCに関して、関連する需要が出てくると思うので期待している。

②グループインタビューの結果概要／高齢者グループ 6/25(木) 於：カメラアホール

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策2 安心が確保されたまちづくりの推進

- ・高齢化率がかなり高くなってきているが、老人クラブの加入率が低い。
- ・市シルバー人材センターには震災前、約500人入会していたが、現在は約280人。
- ・共働きが増加し、高齢者の役割も変わってきている。高齢者の生きがい対策として、活動できる場を作っていければと思う。社会貢献したいと考えている高齢者は多い。
- ・元気な高齢者づくりのため、サロンを運営しており、地区内で年間約3,000人が参加しているサロンもある。参加者それぞれが趣味を持ち寄りたりするなどして、各々の個性がかみあうようになってきている。
- ・グランドゴルフや踊りの会を立ち上げて活動しているが、高齢者も集まって、楽しむことができれば健康増進にもつながるし、医療費の削減にもなると思う。
- ・震災後に増えた空き家を活用して、サロン会と称して高齢者が集まっている。
- ・少子化で活気が減っている。これからは高齢者と子どもたちが交流し、情報交換できればいいと思う。
- ・各団体では、高齢者が認知症にならないよう、様々な活動を展開している。家の中にいないで、外に生きがい、活動の場を作っていくというもの。医療費も年々増えている状況にもあるので、高齢者が元気に過ごせるよう、仕組みづくりや広報を進めて欲しい。

施策4 潤いに満ちた快適な都市環境の創造

- ・田舎に住んでいると、高齢者にとっては交通が不便。日頃市にはデマンド交通があるので、運行回数は少ないありがたい。
- ・大船渡市は交通の便が非常に悪い。
- ・高齢者の免許返納について、もし返納したら、公共交通機関が確立されていないから、生活できなくなる。これによって、高齢者の免許返納も進まないでいる。
- ・大きいバスではなく、マイクロバスでもいいので、市内の道路を循環するようなバスが欲しい。
- ・バスはステップが高くて乗れないという高齢者もいる。そうするとタクシーしかないので、高齢者にやさしい対応として、病院や金融機関、商店街に行くための足の確保が必要。

施策7 自立した行政運営の確立

- ・天神山公園の清掃を盛地区住民で年2回実施しているが、高齢化等により参加者が減ってきて、盛町民だけで実施するのは難しくなっている。そうしたことを市と相談できるような場が欲しい。
- ・行政としてやるべきことと、市民が取り組むべきことをしっかり分けて、市でなければやれないことをやって欲しい。

③グループインタビューの結果概要／子育て団体グループ 6/25(木) 於：カメラアホール

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策2 安心が確保されたまちづくりの推進

- ・子育て関連施設の利用者層が、かつて4～6歳児くらいの利用が多かったのが、ここ数年は0～2歳児くらいの赤ちゃんの利用が増えている。4～6歳児は保育園に入園しているのが多いようだ。
- ・自分で保育しようとするお母さんたちも、子ども同士で遊ばせたいが、その相手がいないため、子どもを保育園に預けて、自分は仕事に行くというお母さんが出てきているのが現状。
- ・自分のまわりでは、産休・育休を取って、仕事に復帰する人は過半数。
- ・育休をきちんと取っている人はいるが、仕事をしないと生活もできないので、子どもが生まれて一年以内に職場に復帰するケースが多いように聞いている。
- ・外国人の子どもが来所することもあり、文化の違いを感じることもある。それぞれが育ってきた環境での子育てがあり、相手を尊重するようにしている。
- ・病院は待ち時間が多く、お母さんたちの負担が大きい。皮膚科などは他にないので、釜石市や気仙沼市からも患者が来て混雑することがある。
- ・医療費が高校生まで無料ということなどもあり、医療面はいろいろな面で充実している。
- ・ボランティア団体同士のコラボレーションはほとんどない。
- ・子どもたちが雨の日でも自由に遊べる、室内用の遊具施設が欲しい。おおふなぼーともある程度の広さはあるが、自習室とつながっているので、騒いだりできない。
- ・子どもが減っているので、子どもたちが集える場所づくりが必要。お母さんたちから聞くと、平日、公園に行っても誰もいない、陸前高田市のアバッセの公園に行けば、必ず誰かいる。

施策4 潤いに満ちた快適な都市環境の創造

- ・震災前は公園じゃなくても遊べる場所があったが、今は整備された場所しか遊べない。親が連れて行って、見張っているような遊び方しかしていないような気がする。子どもにとって自由な、勝手に遊べるところが欲しい。
- ・公園や広場は、整備に地域差があるように思う。車で子どもを連れて行って、遊ばせたりしている。
- ・みどり町公園や諏訪前公園は安心して遊ばせられる広さもある。夢見公園は小さい子には遊具が大きかったりして、大きい子が遊んでいる。
- ・通勤族の人たちは車が一家に一台という家庭も多く、免許はあっても車を使えないという人もいる。そうになると、公共交通が使いにくい、病院に行くのが大変というのがあるようだ。

施策5 やすらぎある安全なまちづくりの推進

- ・震災時、妊婦や乳児は大変だった。有事の際に、ここに行けばオムツやミルクがあるという場所を確保して欲しい。子育て団体にも情報を共有してもらい、そこからお母さんたちに情報を提供できたらいい。
- ・避難場所やハザードマップなどを転入してきた人たちから聞かれることがある。そうした情報を発信するようにしてほしい。

④グループインタビューの結果概要／市民活動団体グループ 6/26(金) 於：おおふなぼーと

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策1 豊かな市民生活を実現する産業の振興

- ・三陸鉄道を利用する観光客には、ただ乗るだけではなく、途中下車するように、散策コースなどがあればいい。次の電車までの待ち時間が長いが、その時間を使って周辺を回遊してもらえるようにしてほしい。
- ・観光情報が市や観光物産協会のホームページに掲載されているが、もっと頻繁に更新してほしい。

施策3 豊かな心を育む人づくりの推進

- ・小中学生向けにプログラミング教室を開催したが、今の子どもたちは消費者としての意識は強いが、自分で何かを作ろうとするのが少ない。技術に触れる機会が少ない。

施策7 自立した行政運営の確立

- ・大船渡は地域のつながりが大きい反面、閉鎖的で、コミュニティに入るまでが大変。よそ者を受け付けないところがあるが、震災で少しずつ、外からの人を受け入れるようになった印象がある。
- ・様々な市民団体、市民活動があるが、同じ人があちこちで活動しているということも多い。団体間の活動を結び付けるような、コーディネートを市に担ってほしい。
- ・市民活動を行っていく上で、20代、30代の担い手が少ない。
- ・他の市町村と比べると、青年会議所や商工会青年部と、市とのリンクが薄い。協働の部分で、一緒にやっていたらと思うし、逆に市のほうから投げかけてきて一緒に活動している団体も市内にある。
- ・青年会議所は県内に13団体あるが、市職員が入会したことがないのは大船渡のみ。入会するかどうかは本人の意思次第と思うが、情報共有や自分が入って活動することでの責任感など、得られる部分が多いと思う。
- ・震災により多くの団体とつながりができ、その団体・人たちとのつながりは市民であたってきた。これだけではもったいない。行政が深く関わるようにして、縁を絶やさないようにすればまちの活性化につながると思う。
- ・インターネットを活用した情報発信について、継続が大事。若い人の声を発信できたらいい。

⑤グループインタビューの結果概要／農林水産業グループ 6/26(金) 於：おおふなぼーと

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策1 豊かな市民生活を実現する産業の振興

- ・ホタテのブランド化を進めて、生産者が直接、消費者と話をし「おいしかった」と言われることがモチベーションアップにつながった。それを地元で食べたいとなったときに、道の駅や地元の店で食べられるようにして、足を運んでもらうことが大事。そこで三陸鉄道の駅を結び付けて、人を呼び込んだりしている。大船渡の地名とセットでホタテを思い浮かべてもらえる。
- ・獲れる魚種が大きく変化してきている。貝毒も多発している。
- ・漁業の担い手問題で、圧倒的に人が足りず、やりたくてもできない人もいる。漁を行う上でのルール緩和等を進めていかないと、新しい人が漁に出ることができない。一人で漁に出る人が増えてきており、今後も増えると思うが、安全面が課題。
- ・水産加工業への就労者が少なく、外国からの研修生を雇用している。
- ・農業分野での担い手解消の取組の一つとして、無料の職業紹介所を作って、マッチングを行っている。
- ・小枝柿を取扱う農家は減少している。高齢者がほとんどなので、木に登っての収穫や、手入れが困難になってきていて、生産量が減ってきている。
- ・行政と連携した取組が重要で、その一つとしてさんまを使ったイベントを実施。イベントに来てもらうだけでなく、市内を回遊するような仕掛けをしている。
- ・輸出に頼ってきた中で、コロナ禍により内需拡大となるが、後継者がいなければ生産が衰退し、内需の拡大にもつながらない。フラットに見直すべき。消費者はそれなりに安いものを求めているが、適正な価格があるのではないか。

施策6 自然豊かな環境の保全と創造

- ・海水温の上昇により、海流が変わったり、いろんな魚が獲れなくなってきている。

⑥グループインタビューの結果概要／高校生グループ 7/15(水) 於：シーパル大船渡

1 施策の大綱（政策）ごとの意見・提言

施策1 豊かな市民生活を実現する産業の振興

- ・大船渡の花でもある椿が自慢だが、他に伝わっていないので、いろんな人に知ってもらえるような仕掛けが必要。ある企業と一緒にビジネスコンテストに取り組んだが、まだまだ椿茶も知られていない。
- ・キャッセン付近は、周辺にもどんどん店が増えてきたので、まわりの店にも行ったりできる。
- ・サンリアで遊んだりしていたが、本屋や雑貨屋がなくなり、人がいない、寂しい感じになってきたように思う。
- ・立根地区には、郊外型のスーパーやカラオケが集中していて便利。コンビニが増えて買い物がしやすい。
- ・市外から人を呼んで、小さい子から大人まで集まれるようなイベントがあったらいい。
- ・高校生がいろんな職業の人と関わりを持つ機会が欲しい。そういう機会があれば、Uターンなどでも働くイメージを持ちやすい。
- ・三陸SUN（東京）での宣伝活動を行ったりしたが、市内から人を呼び込む、大船渡を知ってもらう体験などの手立てが必要。

施策2 安心が確保されたまちづくりの推進

- ・震災後、小さな子どもたちが外で遊んでいるのをよく見かけるようになった。
- ・新婚旅行サポート（助成）があったらいい。

施策3 豊かな心を育む人づくりの推進

- ・若者が話せる場所、勉強できる場所を確保して欲しい。リアスホールやおおふなぼーとくらいしかないので、もっと増やして欲しい。
- ・市内には様々な伝統行事・芸能があるが、嫌々やっているのではなく、楽しんでやっている。
- ・兄弟が多いと進学にお金がかかる。学費や子育ての助成に力を入れて欲しい。
- ・スポーツジムを建てて欲しい。YSセンター内にあるが、お年寄りが通うのは厳しいので、まちに近いところにあったらいい。
- ・木を活用したアスレチックが欲しい。小さい子から中高生、高齢者まで楽しめるような、全年齢対象のものがあればいい。

施策4 潤いに満ちた快適な都市環境の創造

- ・三陸鉄道を使って綾里から通学しているが、車よりも早く盛町まで来ることができて便利。
- ・公園は小さい子どもたちが多いためあまり遊べない。夢見公園では、小さい子どもが遊具では遊びにくく、高校生が遊んだりしている。
- ・キャッセンなどの周辺には大きな公園があるが、住宅地に行くと公園がない。公園があっても管理されていないところもあって、利用しにくいときがある。
- ・赤崎グラウンド周辺にコンビニが欲しい。コンビニがあることで、周辺に住みたい理由にもなる。

施策5 やすらぎある安全なまちづくりの推進

- ・大船渡は治安がいい。
- ・大船渡学で、他県の高校生に震災のことを話したりした。非常にリアクションがよく、続けていきたい。